

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号
特許第5597201号
(P5597201)

(45) 発行日 平成26年10月1日 (2014. 10. 1)

(24) 登録日 平成26年8月15日 (2014. 8. 15)

(51) Int. Cl.

F I

B 6 5 D 25/04 (2006. 01)

B 6 5 D 25/04 D

B 6 5 D 39/08 (2006. 01)

B 6 5 D 39/08

請求項の数 7 (全 8 頁)

(21) 出願番号	特願2011-525432 (P2011-525432)	(73) 特許権者	596060424
(86) (22) 出願日	平成21年8月14日 (2009. 8. 14)		フィリップ・モーリス・プロダクツ・ソシ
(65) 公表番号	特表2012-501917 (P2012-501917A)		エテ・アノニム
(43) 公表日	平成24年1月26日 (2012. 1. 26)		スイス国セアシュール 2000 ヌシャテル
(86) 国際出願番号	PCT/EP2009/005922		、ケ、ジャンルノー 3
(87) 国際公開番号	W02010/025819	(74) 代理人	100092093
(87) 国際公開日	平成22年3月11日 (2010. 3. 11)		弁理士 辻居 幸一
審査請求日	平成24年8月9日 (2012. 8. 9)	(74) 代理人	100082005
(31) 優先権主張番号	08252935.5		弁理士 熊倉 禎男
(32) 優先日	平成20年9月4日 (2008. 9. 4)	(74) 代理人	100067013
(33) 優先権主張国	欧州特許庁 (EP)		弁理士 大塚 文昭
		(74) 代理人	100086771
			弁理士 西島 孝喜
		(74) 代理人	100109070
			弁理士 須田 洋之

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 2つの対向する蓋を有する容器

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

側壁（12）と基部壁（10）とで構成される本体部分（4）と、
前記本体部分（4）の前記側壁（12）の上に装着され、該本体部分（4）と共に第1の区画（14）を形成する第1の蓋（6）と、
前記本体部分（4）の前記側壁（12）の上に装着され、該本体部分（4）と共に第2の区画（16）を形成する第2の蓋（8）と、
を含み、
前記第1の蓋（6）及び前記第2の蓋（8）は、両方とも前記本体部分（4）から取外し可能であり、
前記第1の区画（14）及び前記第2の区画（16）は、前記基部壁（10）の両側に位置し、
前記基部壁（10）は、前記第1の区画（14）が、凸状の該基部壁（10）の区域を含むように、かつ前記第2の区画（16）が、凹状の該基部壁の同じ区域を含むように湾曲しており、前記第2の区画（16）は、前記湾曲した底部壁の凹面と前記第2の蓋（8）とによってもっぱら形成されていることを特徴とする容器（2）。

【請求項 2】

蓋を閉じた位置に固定するための少なくとも一方の蓋（6）（8）に関連付けられた保持手段（32）を含むことを特徴とする請求項1に記載の容器（2）。

【請求項 3】

前記本体部分(4)は、前記第1(14)及び第2(16)の区画の少なくとも一方の内容物を表示するのに適する実質的に透明な部分(26)を更に含むことを特徴とする請求項1又は2に記載の容器(2)。

【請求項4】

前記第1の蓋(6)、前記第2の蓋(8)、及び前記本体部分(4)のうちの少なくとも1つは、円形断面を有することを特徴とする請求項1又は2に記載の容器(2)。

【請求項5】

前記第1の蓋(6)、前記第2の蓋(8)、及び前記本体部分(4)は、円形断面を有し、

前記第1の蓋(6)、前記第2の蓋(8)、及び前記本体部分(4)の外径が、実質的に同じである、

ことを特徴とする請求項4に記載の容器(2)。

【請求項6】

前記第1の蓋(6)及び前記第2の蓋(8)は、異なる開口部機構を有することを特徴とする請求項1又は2に記載の容器(2)。

【請求項7】

香味袋を含むことを特徴とする請求項1又は2に記載の容器(2)。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、消費財のための新しい容器に関する。この容器は、経口感覚をもたらすような品目に特に適している。より詳細には、容器は、タバコを含む1つ又はそれよりも多くの選択された香味料の経口送出のための香味袋として適している。

【背景技術】

【0002】

消費財は、一般的に、消費財を収容するための箱部分と箱部分を閉じるための取外し可能な蓋とを有する箱又はスズ缶に入れて販売される。

【0003】

蓋部分に付加的で小さな区画を有する消費財のための容器の提供が提案されている。例えば、WO-A-2005/016036は、嗅ぎタバコを収容する箱の部分を密封する下部蓋と、下部蓋にヒンジ式接合によって可動的に固定されたカバー蓋とを含む蓋部分を有する箱を開示している。下部蓋とカバー蓋は、それらの間に使用済みの嗅ぎタバコを収容するように意図した空間を形成する。カバー蓋は、下部蓋上の対応する部分と相互作用するタブの手段によって閉じた位置に保持される。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0004】

【特許文献1】WO-A-2005/016036

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

各々が簡単に開閉することができる2つ又はそれよりも多くの別々の区画を有する容器を提供することが望ましいと考えられる。各々が他の区画から独自にアクセス可能な2つ又はそれよりも多くの別々の区画を有する容器を提供することも望ましいであろう。そのような容器を簡単に製造して組み立てることができるのであれば更に望ましいと考えられる。

【課題を解決するための手段】

【0006】

本発明により、本体部分を含み、本体部分が側壁及び基部壁から構成される容器を提供する。容器は、第1の蓋及び第2の蓋を更に含み、第1の蓋及び第2の蓋は、両方とも取

10

20

30

40

50

外し可能に側壁に取り付けられる。本体部分と第1の蓋は、第1の区画を形成し、本体部分と第2の蓋は、第2の区画を形成する。本発明によれば、第1の区画及び第2の区画は、基部壁の相対する側に位置する。すなわち、第1及び第2の区画の開口部も、容器の相対する側に配置される。

【0007】

区画の開口部を基部壁の相対する側に配置すると、消費者が両方の区画を同時に開くのを妨げる。1つの区画が閉じていると、消費財を汚染するか又は品目が区画内で混合する危険性が低下する。

【0008】

第1の区画及び第2の区画は、実質的に互いに同じサイズにすることができるが、好ましくは、第1の区画及び第2の区画は、サイズ及び容積が異なる。

10

【0009】

第1の蓋及び第2の蓋は、両方とも本体部分から取外し可能である。これは、対応する区画を開くために蓋が開かれる時に、蓋が本体部分に接続されたままではなく、完全に分離されるか又はそこから取り外されることを意味する。これは、ヒンジのような本体部分に蓋を恒久的に接続するための手段を組み込む必要がないために、容器の生産及び組立工程を簡単にする。

【0010】

基部壁は、全ての側で側壁によって取り囲まれた平坦な又は湾曲した壁である。側壁は、例えば、円形基部壁を取り囲む1つの面で構成することができる。代替的に、側壁は、例えば、三角形の基部壁に対して3つ又は矩形の基部壁に対して4つのいくつかの個別の面を含むことができる。側壁は、基部壁に対して実質的に垂直にすることができる。代替的に、側壁は、例えば、容器が基部壁に対して垂直方向にテーパ付きになっている場合、基部壁方向に又は基部壁から離れるように傾斜させることができる。

20

【0011】

第1の蓋及び第2の蓋は、好ましくは別々であり、換言すれば、それらは、いずれの方法によっても互いに取り付けられるか又は連結されない。蓋の構造は、従って、蓋が互いに接続された従来技術の容器の構造と比較して比較的簡単にすることができる。簡略化された蓋の構造の1つの利点は、製造及び組立の工程を更に簡単にすることができ、かつより効率的なことである。更に別の利点は、各蓋をより簡単に取り外して交換することができることである。蓋が互いに対して取り付けられていないので、一方の区画を開こうとする間に他方の区画を不注意で開ける危険性も最小になる。

30

【0012】

好ましくは、本体部分の基部壁は、第1の区画が凸状の基部壁の区域を含むように湾曲している。湾曲した基部壁は、容器に構造的強度を追加する。

【0013】

好ましくは、第2の区画は、基部壁の他方の側に基部壁の対応する区域を含む。基部壁のこの側では、基部壁の区域は凹状である。これは、底部壁の区域の凸状の形状によって第1の区画で無くなった容積が、実質的に第2の区画の容積に加わることを意味する。特に好ましい実施形態では、第2の区画は、もっぱら湾曲した底部壁の凹面と第2の蓋とによって形成される。好ましくは、底部壁の周方向区域は、蓋の面と接触するようになり、第2の区画が閉じている時に気密シールを形成する。

40

【0014】

第1の蓋又は第2の蓋又は両方の蓋は、本体部分の側壁の上に装着することにより、それらの各区画を閉じることができる。代替的に、第1の蓋又は第2の蓋又は両方の蓋は、本体部分の側壁内に嵌め込むことによってそれらの各区画を閉じることができる。

【0015】

各蓋は、好ましくは、その蓋を本体部分から取り外すために消費者によって正の力が加えられるまで閉じた位置を維持する。それによって使用中に不注意で蓋が容器から分離されないことが保証される。有利な態様においては、蓋は、本体部分上での蓋の緊密な適合

50

、及び各蓋の接触面と本体部分の側壁との間の摩擦のために閉じた位置に留まることができる。例えば、蓋が本体部分の上に装着される場合、蓋には、その上に蓋が装着される本体部分の外側断面と形状及びサイズが実質的に同じ内側断面を設けることができる。代替的に、蓋が対応する開口部内に嵌合する場合、蓋には、その開口部の断面と形状及びサイズが実質的に同じ外側断面を設けることができる。好ましくは、接触面の少なくとも1つは、高摩擦面である。例えば、接触面の少なくとも1つは、容器の残りの面と比較して粗くすることができる。

【0016】

代替的に又は追加的に、第1の蓋及び第2の蓋の少なくとも一方は、その蓋を閉じた位置に固定するための保持手段を更に含む。保持手段は、本体部分、又は蓋、又は本体部分及び蓋の両方に設けることができる。保持手段は、蓋の一方又は両方に対して設けることができる。保持手段は、例えば、他の接触面上の1つ又はそれよりも多くの相応に位置決めされた溝と係合する接触面の1つの上の1つ又はそれよりも多くの環状フランジを含むことができる。この形式の保持手段を用いて、蓋は、フランジを溝から切り離すために容器の残りの部分から離れるように引っ張ることによって容器から移動させることができる。

10

【0017】

特に好ましくは、容器表面には、蓋が閉じている時に互いと係合する対応するネジ山が設けられる。ネジ山は、1つの螺旋ネジ山とするか、又は代替的にネジ山の少なくとも2つの周方向に離間した部分によって設けることができる。

20

【0018】

第1の蓋及び第2の蓋には、同じか又は異なる保持手段を設けることができる。

【0019】

本発明による容器は、好ましくは形状が実質的に円筒形であり、本体部分及び各蓋が実質的に円形外側断面を有する。代替的に、本発明による容器の本体部分及び蓋は、例えば、実質的に三角形、矩形、又は楕円形断面を含む実質的にプリズム状又はピラミッド状の形状とすることができる。好ましくは、第1の蓋及び第2の蓋の高さの各々は、閉じた容器全体の高さの約3分の1である。代替的に、第1の蓋及び第2の蓋は、該2つの蓋を区別するために異なる高さを有する。

【0020】

30

任意的に、容器は、第1の蓋及び第2の蓋を区別するための手段を含むことができる。例えば、蓋は、異なる色とするか、又はどの区画がどの種類の2つの可能な消費財を収容するかを表示するために容器には印刷、エンボス、又はその他の方法で印しを付けることができる。これは、区画の一方が使用された消費財を保存するように意図され、それに対して他方の区画が新鮮な又は使用されていない消費財を保存するように意図される場合に特に有用である。

【0021】

本発明による容器は、以下に限定されるものではないが、厚紙、プラスチック、金属、又はその組合せを含むあらゆる適切な材料で形成することができる。本体部分は、蓋と異なる材料で形成するか、又は本体部分及び蓋は、全て同じ材料で形成することができる。第1及び第2の蓋の各々は、異なる材料で形成することができるが、好ましくは、第1及び第2の蓋は、同じ材料で形成される。特に好ましくは、この材料は、本体部分が形成される材料とは異なる。例えば、好ましい実施形態では、本体部分が成形プラスチックから作られる一方、第1及び第2の蓋は、金属で作られる。

40

【0022】

好ましくは、本体部分は、第1及び第2の区画の少なくとも一方の内容物を見るために実質的に透明な部分を含む。それによって蓋を取り外さなくても容器内に消費財がいくつ残っているかを見ることが可能になる。好ましい実施形態では、本体部分は、実質的に透明なプラスチック材料から作られる。好ましくは、容器の本体部分は、ポリプロピレン、ポリエチレン、ポリスチレン、ナイロン、ポリスルホン、ポリエステル、ポリウレタン

50

、及びその組合せから構成される群から選択された材料から射出成形される。代替的に、本体部分は、ガラスから作られる。

【 0 0 2 3 】

例えば、第 1 及び第 2 の区画は、香味、色、又はテクスチャが異なる消費財を保存するのに使用することができる。代替的に、1 つの区画は、消費財と組み合わせて使用するアクセサリを保存するのに使用することができる。代替的に、1 つの区画は、廃棄された包装材料又は使用された消費財を保存するのに使用することができる。

【 0 0 2 4 】

有利な態様においては、第 2 の区画の具備は、容器内で使用された品目のその適切な廃棄が可能になるまでの一時的な保存を可能にする。第 2 の区画が第 1 の区画から分離されており、かつ両方の区画が別々の蓋によって閉じられているので、使用されなかった品目が、使用された品目によって汚染されるか又はその他の方法で悪影響を受けないことが保証される。

【 0 0 2 5 】

本発明による容器は、経口感覚をもたらす製品の保存のための容器としての特定用途を見出す。より詳細には、容器は、タバコを含む 1 つ又はそれよりも多くの選択された香料の経口送出的ための香味袋として適している。一般的に、香味袋は、香味源を封入する外部包装紙を含む。香味袋の例は、s n u s 袋である。s n u s 袋は、袋材料に入れられたタバコ材料であり、タバコ材料は、タバコ、水、及び食塩、並びに非タバコ香味料及び湿潤剤のような添加剤を含むことができる。

【 0 0 2 6 】

容器は、好ましくは、未使用消費財が充填された第 1 の区画及び空の第 2 の区画で提供される。特に好ましい実施形態では、第 1 の区画には香味袋が充填され、第 2 の区画は空である。

【 0 0 2 7 】

消費財が充填された状態で、消費財を収容する区画は、消費財の新鮮さを維持するのに好ましくは密封される。例えば、プラスチック又はホイル層で、第 1 の区画の上縁にわたって密封することができる。好ましくは、そのようなシール層は、タブ又は層の簡単な除去を可能にするための他の手段を含む。

【 0 0 2 8 】

添付図面を参照して本発明を単に一例として更に以下に説明する。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 2 9 】

【図 1】本発明による閉じた容器の斜視図である。

【図 2】図 1 の閉じた容器の断面図である。

【図 3】第 1 の蓋が容器から取り外された図 1 の容器の斜視図である。

【図 4】第 2 の蓋が容器から取り外された図 1 の容器の斜視図である。

【発明を実施するための形態】

【 0 0 3 0 】

図 1 から 4 に示す容器 2 は、形状が実質的に円筒形であり、プラスチック本体部分 4 と第 1 の金属蓋 6 及び第 2 の金属蓋 8 とを含む。第 1 の蓋 6 及び第 2 の蓋 8 は、本体部分 4 の両端の上に装着される。

【 0 0 3 1 】

図 2 を見ても分るように、本体部分 4 は、円形の基部壁 1 0 と基部壁 1 0 の縁部から垂直方向に延びる環状の側壁 1 2 とを含む。基部壁 1 0、側壁 1 2、及び第 1 の蓋 6 は、第 1 の区画 1 4 を形成する。基部壁 1 0 は、湾曲しており、第 1 の区画 1 4 の開口部に向かって凸状である。第 1 の区画 1 4 から反対側の基部壁 1 0 の凹面は、凹部を形成し、第 2 の蓋 8 と共に第 2 の区画 1 6 を形成する。第 2 の区画 1 6 は、第 1 の区画 1 4 よりも有意に小さい。

【 0 0 3 2 】

第 1 の蓋 6 は、円形の上部壁 1 8 と上部壁 1 8 の縁部から垂直に延びる環状の側壁 2 0 とを含む。本体部分 4 の側壁 1 2 の上に装着されると、第 1 の蓋 6 は、第 1 の区画 1 4 を閉じる。

【 0 0 3 3 】

同様に、第 2 の蓋は、円形の上部壁 2 2 と上部壁 2 2 の縁部から垂直に延びる環状の側壁 2 4 とを含む。基部壁 1 0 に隣接する本体部分 4 の側壁 1 2 上に装着されると、第 2 の蓋 8 は、第 2 の区画 1 6 を閉じる。

【 0 0 3 4 】

図 2 を見ても分るように、本体部分 4 の側壁 1 2 は、環状の中心部分 2 6 と中心部分 2 6 の両側の第 1 の環状凹部部分 2 8 及び第 2 の環状凹部部分 3 0 とを含む。基部壁 1 0 に隣接する本体部分 4 の側壁 1 2 の上に装着されると、第 2 の蓋 8 は、第 2 の区画 1 6 を閉じる。図 1 を見ても分るように、中心部分 2 6 は、蓋 6、8 が所定位置にある時に可視のままである。

【 0 0 3 5 】

第 1 の環状凹部部分 2 8 及び第 2 の環状凹部部分 3 0 は、中心部分と比べて直径が減少している。中心部分 2 6 と第 1 の部分 2 8 及び第 2 の部分 3 0 との間の直径の差は、蓋 6、8 の側壁 2 0、2 4 の厚みとほぼ等しい。従って、第 1 の蓋 6 及び第 2 の蓋 8 が本体部分 4 上の所定位置にあると、それらの側壁 2 0、2 4 の各々は、本体部分の側壁 1 2 の第 1 の環状部分 2 8 及び第 2 の環状部分 3 0 と重なる。この閉じた位置では、蓋 6、8 の側壁 2 0、2 4 は、本体部分 4 の側壁 1 2 の中心環状部分 2 6 と同一平面上にある。

【 0 0 3 6 】

図 3 を見て分るように、本体部分の側壁 1 2 の第 1 の環状凹部部分 2 8 は、本体部分の周りで周方向に延びる複数の突出部 3 2 を含む。第 1 の蓋 6 は、その側壁 2 0 の縁部に環状フランジ又はリップを含み、それが本体 4 上の突出部 3 2 と係合して第 1 の蓋を閉じた位置に保持する。第 1 の蓋 6 を取り外すために、蓋 6 を本体部分 4 から離れるように引っ張る圧力が、蓋 6 の反対側の側面に加えられるべきである。

【 0 0 3 7 】

図 4 を見て分るように、本体部分 4 の側壁 1 2 の第 2 の環状凹部部分 3 0 は、その周りで周方向に延びる外部ネジ山を含む。第 2 の蓋 8 の側壁 2 4 の内面は、対応するネジ山を含み、それが本体部分 4 上の外部ネジ山と係合して第 2 の蓋 8 を閉じた位置に保持する。第 2 の蓋 8 を取り外すために、第 2 の蓋 8 は、反時計方向にほぼ 4 分の 1 回転だけ本体部分 4 に対して回転させなければならない。反対に、第 2 の蓋 8 を取り替えるために、それは、時計方向にほぼ 4 分の 1 回転だけ本体部分 4 に対して回転させなければならない。

【 符号の説明 】

【 0 0 3 8 】

1 0 基部壁

1 2 側壁

1 4 第 1 の区画

1 6 第 2 の区画

【図 1】

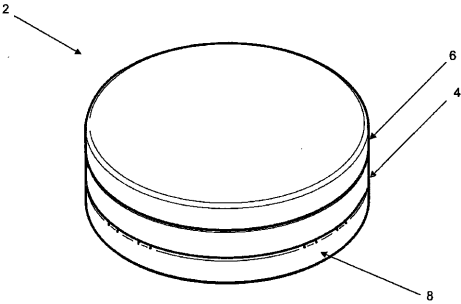


Figure 1

【図 2】

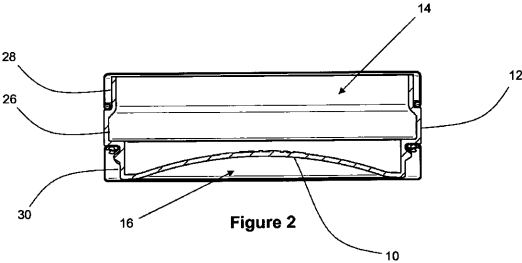


Figure 2

【図 3】

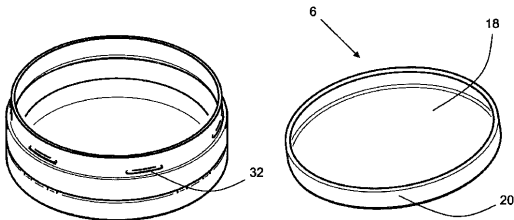


Figure 3

【図 4】

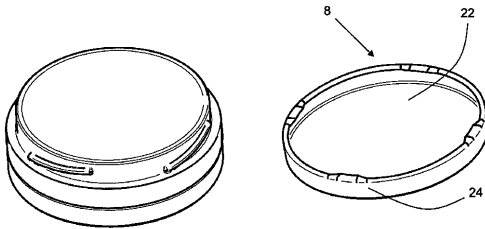


Figure 4

フロントページの続き

(74)代理人 100109335

弁理士 上杉 浩

(72)発明者 ラスマッセン ジェイコブ

ベルギー ベー１１８０ ユックル・ブリュッセル ウィンストン チャーチル アベニュー ２
４７

(72)発明者 アバル ルーカス

スウェーデン エスー４１２７０ ゲーテンバーク グレーンステンスフェーゲン ２

審査官 高橋 裕一

(56)参考文献 特開２００２－１９３２６２（ＪＰ，Ａ）

特開昭６１－０８１９５４（ＪＰ，Ａ）

国際公開第２００８／０９８３１４（ＷＯ，Ａ１）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)

B 6 5 D 2 3 / 0 0 - 2 5 / 5 6

B 6 5 D 3 5 / 4 4 - 3 5 / 5 4

B 6 5 D 3 9 / 0 0 - 5 5 / 1 6